

「彦根城」世界遺産登録に係る推薦書（案）に対するコメント

令和6年(2024年)10月に世界遺産登録に係る審査機関であるイコモスから事前評価の結果が示されて以降、いただいた様々な示唆に対応した推薦書を作成するべく、文化庁や彦根市と協議を重ねながら取組を進めてまいりました。

地元の皆様からの機運の盛り上げと力強い応援・協力のもと、今年度の国内推薦決定、そしてその先にある、令和9年度の世界遺産登録の実現に向けて、関係者が一丸となって歩みを進めてきたところであります。

この度、その成果として、彦根城の世界遺産登録に向けた審議に必要な推薦書（案）を提出するに至りました。今後、これをもとに、国の文化審議会での審議が進められるものと思います。

我々としましては、約250年にわたって、安定した社会秩序を維持した「徳川の平和」（パクストクガワナ）と呼ばれる、世界でも注目される時代を支えた「大名統治システム」と、その独特な政治体制の拠点として、なくてはならない役割を果たした江戸時代の城が、世界的な観点から見て顕著な普遍的価値を持つこと、そして、その江戸時代の城を代表する彦根城が、いかに重要な城であったかについて、推薦書（案）では、分かり易く、かつ丁寧に説明しております。

今回の推薦書（案）の提出により、彦根城の世界遺産登録に向け、また一步を進められたものと考えております。頂の見えない山頂を目指して登るがごとく、決して楽な道のりではないとは存じますが、今後も、文化庁をはじめ、国の文化審議会や彦根城世界遺産登録推進学術会議、その他多くの関係者の皆様の御支援・御指導を賜りながら、引き続き、我々が目指す令和9年度の世界遺産登録の実現を目指して邁進してまいります。

令和7年(2025年)7月11日

滋賀県知事 三日月 大造